

4.日本周辺高度回遊性魚類資源調査

下山 俊一

目的

国連海洋法ではマグロ類等の高度回遊性魚類について、沿岸国及び漁業国が直接もしくは適切な国際機関を通じてその保存、管理に協力することとされている。

このうちクロマグロにおいては我が国周辺水域において他種多様な漁獲・利用がされていることから、当該資源の安定的な利用の確保のため、科学的データの完備を図る。

方法

1)漁獲情報調査

主に境港でまき網により水揚げされたクロマグロの水揚げ伝表を整理し、銘柄別の水揚げ尾数及び重量を集計する。

2)生物測定調査

境港にまき網漁業によって水揚げされる漁獲物について、体長及び体重を測定する。

3)標本採集調査

境港にまき網漁業によって水揚げされる漁獲物について、生殖腺、筋肉及び硬組織（耳石、脊椎骨等）の採集を行う。

結果

本年のマグロ（親魚）水揚げ状況を図1に示した。夏季の大中型まき網による水揚げ本数は6,768本、総水揚げ量は433トンで、本数は前年をわずかに上回ったが重量は大幅に下回った（前年6,955本、695トン）。

また、本年のクロマグロ銘柄別水揚げ量を表1に示した。

本年夏季のマグロ漁は近年では早めの7月3日に始まり8月11日の終漁まで、18ヵ統が水揚げした。

本年の漁場は、聞き取りによると山口沖から始まり、鳥取沖から能登周辺へと推移していったようである。

大型個体の漁獲時期は平年と同様夏期が中心であり、1998、1999年のような早期化はみられ

なかったが、10月に尾叉長125～130cmのものが少量水揚げされた。

本年は新規の卓越群と推測される小型個体が相当量漁獲され尾数では昨年並みの水準だったものの、総漁獲量は減少した。

ヨコワは、6月、11月、12月を中心に水揚げがみられた。特に6月には約750トンの水揚げがあり太平洋側の漁獲不振もあってクロマグロの水揚げ量としては全国1位となった。

本年夏季に水揚げされたマグロの測定日別体長組成を図2に、経年変化を図3に示した。7月に水揚げされた成魚の平均尾叉長は 151.3 ± 33.1 cm、平均体重は 73.6 ± 53.7 kgで、前年の平均尾叉長より29.3cm、平均体重より38.7kg小さかった。

本年の水揚げは尾叉長125cm台にモードを持つ推定3または4歳魚が主体となり、それに1994年生まれの9歳魚が加わる形となっていた。

前者の小型個体群は、10月に漁獲された同様の大きさの個体群とは生殖腺の発達状況が明らかに異なり、3歳魚であるのならばこれまで4歳と見られていた日本海側のクロマグロの加入年齢に対する新たな知見となる可能性がある。

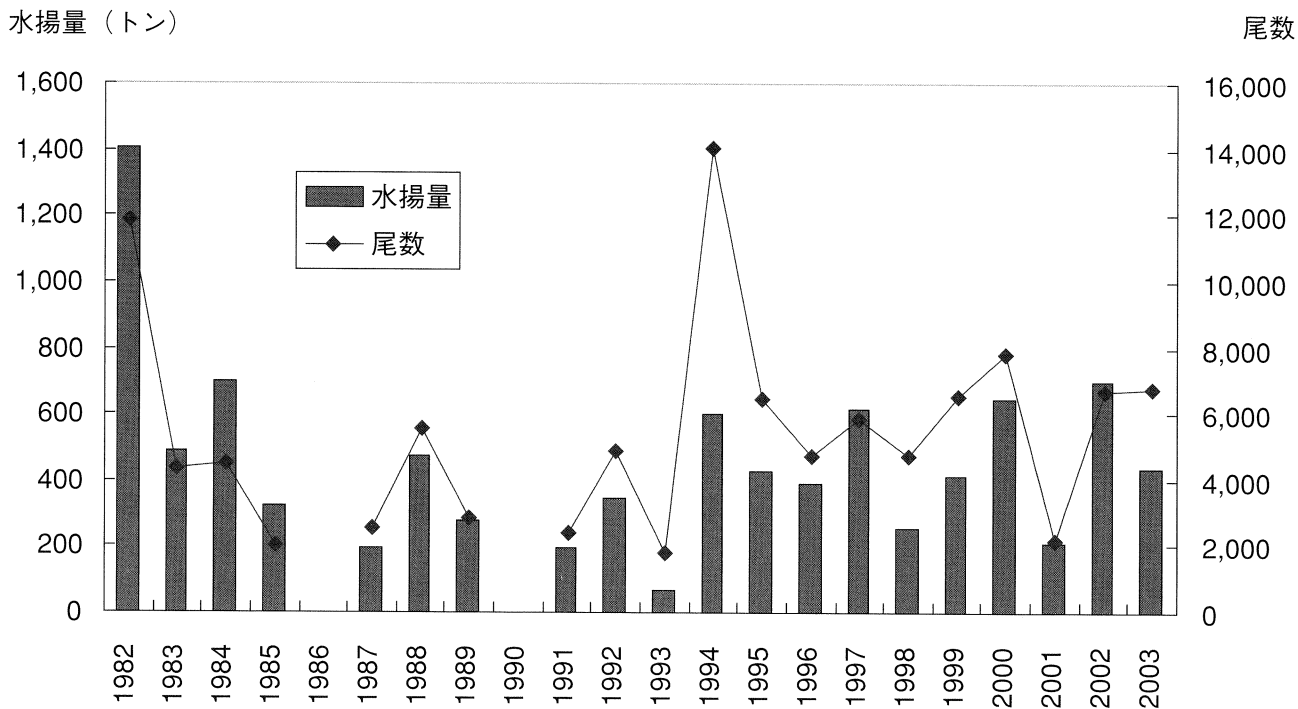


図1 境漁港における夏期クロマグロ（親魚）水揚量の経年変化

表1 2003年境漁港クロマグロ漁獲量

(UNIT: kg)

月	ヨコワ	マグロ	計
1			
2			
3	71,330		71,330
4			
5			
6	757,324		757,324
7	55,068	226,500	281,568
8		206,463	206,463
9	34,810		34,810
10		3,276	3,276
11	343,461		343,461
12	153,261		153,261
計	1,415,254	436,239	1,851,493

表2 2003年夏期成魚日別漁獲量

(UNIT: kg)

月日	隻数	本数	水揚量
7月3日	1	276	38,626
7月9日	1	144	5,380
7月13日	1	392	13,453
7月14日	2	1,188	37,721
7月18日	1	276	13,489
7月19日	1	193	27,883
7月21日	1	4	470
7月22日	1	33	2,319
7月23日	1	58	8,326
7月26日	2	719	55,551
7月30日	1	292	23,282
7月2日	2	1,131	73,989
8月5日	1	168	28,596
8月11日	1	707	37,034
8月12日	1	1,187	66,844
合計	18	6,768	432,963

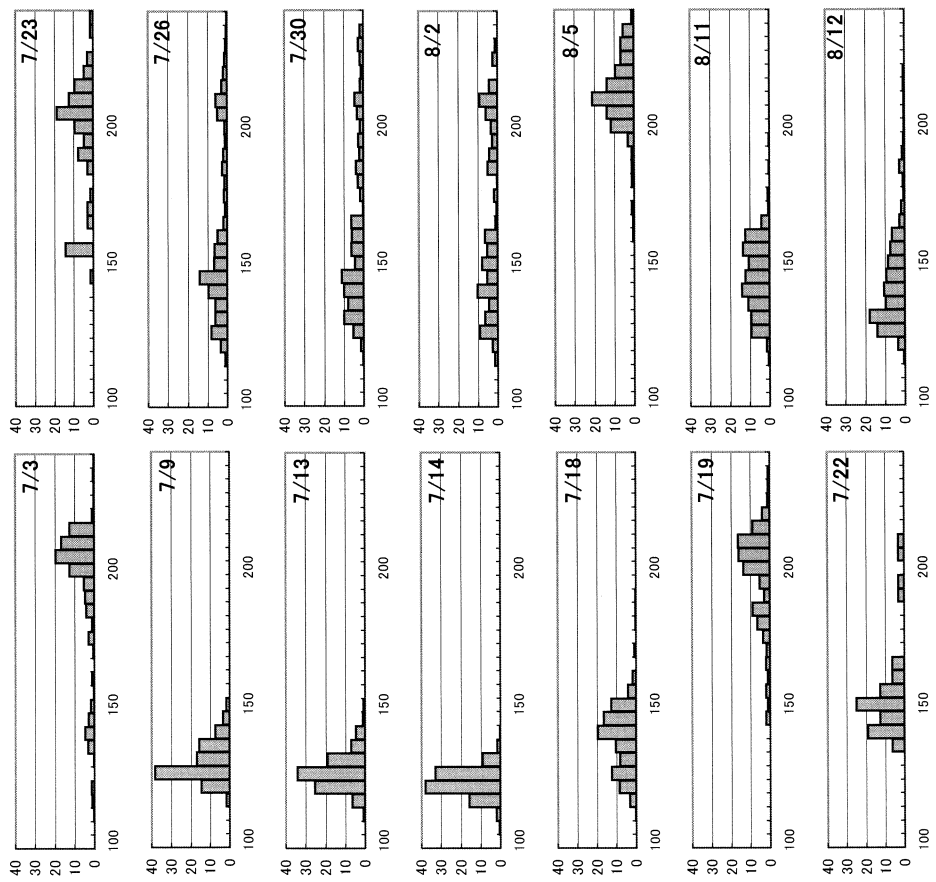


図2 2003年日別尾叉長組成 (横軸：尾叉長、縦軸：頻度)

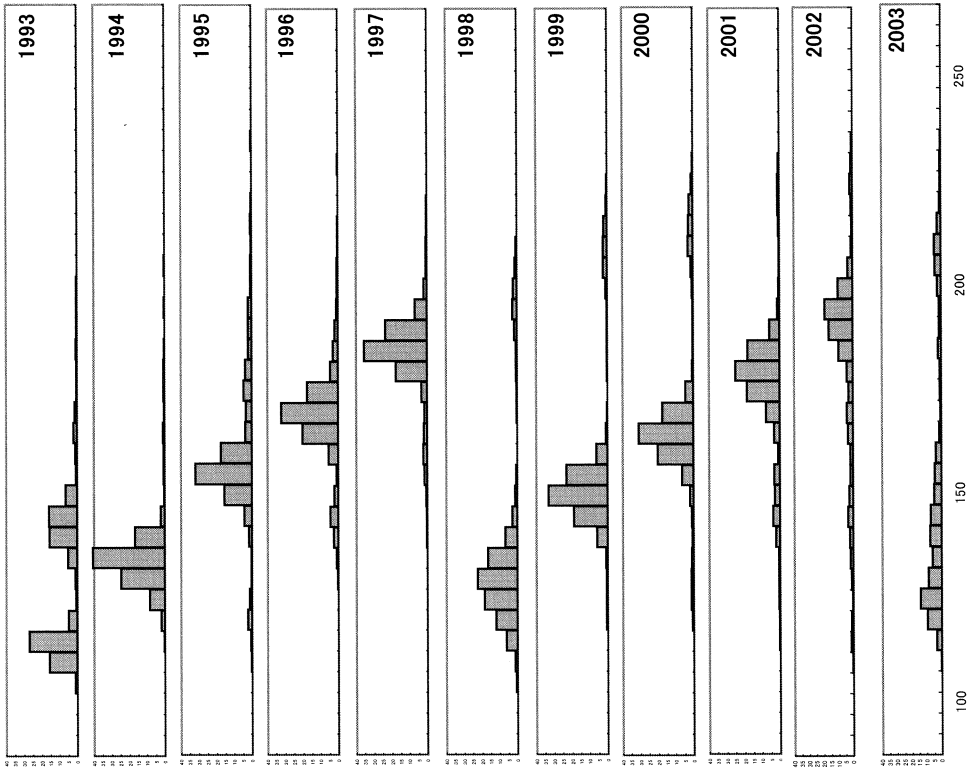


図3 夏期成魚尾叉長組成の推移 (横軸：尾叉長、縦軸：頻度)